原田委員別シート1

10 / 3 締め切りの淀川部会の意見等提出

原田泰志
三重大学生物資源学部
(生物圏生命科学科海洋生物科学講座海洋個体群動態学研究分野)

検討項目候補

ア：適応（順応）管理の河川管理の仕組みへのとりこみ

そもそもとりこむことに意義があるか？

あるならどのような部分？

どのようにすればとりこめるか？

モニタリングはどのような項目について、どれくらい必要か？その態勢をどのようにととのえるか？

イ：地域住民の方の参画について

どのように促進するか

意思決定への参画はどれくらいまでを求めるのか？

どのように求めるのか？

ウ：河川の現状，水利用についての情報の収集，考えられる施策の効果とコストの予測とその客観的評価，そしてその結果の公開について。

今後，どのようにすすめていくか。

エ：水域利用・河川敷利用

どのような利用を推進し，どのような利用はすすめないのか。そしてその根拠をどうするか？

オ：100年，1000年先をみた河川と河川整備のありかた

上記についての補足，意見等

ア：適応（順応）管理の要素としては，「施策を実験とみなすこと」，「施策の効果等の事後モニタリング調査とその結果の評価」，「それにもとづく施策の改訂」などが含まれると思われる。「維持流量の問題」や，「水位変動に依存した生き物の保全のための水位（流量）管理」の問題においては，適応（順応）管理の考え方は重要と考える。

イ：項目としては「モニタリング」，「水防」，「意思決定」といったものが思いつく（他にもある）。検討においては，「（来年度までに求められている）河川整備計画策定について」と「（今後もずっと継続する），具体的な河川管理に関する意思決定」については，区別したほうがよいと思う。

ウ：ダムを撤去することのコストとベネフィット，水利権の在り方，内容を変更したときに予想されるコストとベネフィット，堤内地の大胆なゾーニングなど，広い範囲の方策について大胆に試算をしてみることも，あってもよいと思う。また，利用や環境改善を考えると，「現状をベースになにができるか」という視点に最終的にはたたざるをえないのだが，「原始の自然があってそれを開発（利用）するとしたら，どこまでが許されるか，どういうふうに関係・利用するか」という逆の視点から考えてみることも，必要と思う。本当は，河川整備計画の議論にうつる前に，こういった観点からの検討があって，それを参考に具体的議論ができればよかったのであろう。現在からでは時間が短すぎるようにも思うが，行えると望ましいと思う。

オ：すくなくとも，河川整備を考えるうえで，今後の人口減少等を考えにいれた，流域の望ましいありかたのイメージを各委員がもつことは必要ではないか。